



## 新型コロナウイルスに「感染しない・させない！」

### JR東労組は、感染拡大防止・終息に向けた努力を最大限行っていきます！

『緑の風 第709号』2020年4月20日



新型コロナウイルスは世界的な規模で猛威を振るっている。感染症による死者は16万人、感染者は30万人を上回っている(4月19日現在)と報じられている。そして、日本各地でも感染者拡大の勢いが増している中、日本政府は4月7日夜に東京、神奈川、埼玉、千葉県など7都府県に緊急事態宣言を発令し、4月16日には全国を対象とするまでに至った。

現在JR東日本では、緊急事態宣言を受け臨時列車の運転の取り止めや、窓口の縮小、テレワークや時差出勤、自宅待機が行われている。JR北海道では、労使議論の末、雇用を守るため一時帰休の判断に至った。ウイルスという見えない敵とのたたかいは、いつ終息を迎えるのか未だ先が見えない。働く者の雇用と併せて、家族の健康・安全を守るため「感染しない・させない」対策を貫き、労使共にたたかいていくしかない。

私たちは労働組合として、不安も含めた組合員の声に耳を傾け、情勢を踏まえて出される様々な対策や対応に対しても働く者としてのチェック機能を発揮し、感染拡大防止・終息に向けた努力を最大限行っていくものである。

JR東労組・中央本部は、申15号で「新型コロナウイルスに対する組合員の不安解消を求める緊急申し入れ」を提出し、組合員の安全・健康を守り抜くために精神的に団体交渉を行った。何よりも組合員の不安の解消と感染拡大防止に向けて、今後の対策など労使の認識を一致させ、現在も継続して議論を行っている。また、JRバス関東本部やJRバス東北本部は団体交渉の中で、組合員の最大の課題である雇用不安を解消するため、会社から新型コロナウイルスの影響でバスの運行を減速する措置を行うが「雇用は確実に確保したい」と回答を引き出した。このことは労働組合の役目であり、バス社員の将来に向けた安心感を与えたいは間違いない。

日本中にウイルス感染状況の勢いが増す中、働く者の不安が蔓延し、将来に疑心暗鬼になってい

る。今だからこそ、労働組合としての役割を發揮していかなければならない。しかし、職場に過半数を占める労働組合がほとんど存在しない否定すべき現状に至っている。

そのような中でJR東労組は「風通しの良い、働きやすい職場」を目指して、各分会が過半数代表選挙に向けて創造的なたたかいをしつつ出してきた。各分会では過半数代表選挙に立候補者を擁立するとはもとより、過半数代表者の役割、労働諸法制度の改正による私たちの働き方について、要員問題、オリンピック・パラリンピック

に向け、職場の将来像を自分たちで真剣に考えてもらう議論も積み重ねてきた。ある職場では、新型コロナウイルスに不安を感じている組合員などの声をまとめ、過半数代表として現場長に臨時安全衛生委員会の開催を求めて問題点の解決を目指している。職場における代表としての役割を果たすべく、地道な世話活動や職場のために行動する姿勢が働く者の心を掴むことができたと言えよう。

このように地道だが、各職場の現実と社会情勢を踏まえた創造的な活動をつらや出すことが「新生JR東労組運動宣言」に基づいた運動である。そして、これからも仲間と十分な討論を行い、様々な条件を克服しながら、再加入・新規加入に結びつける継続した運動を共にすすめていく。

### 混迷を深めている今だからこそ 仲間と共に労働組合の責務を果たしていこう！

新型コロナウイルスの影響を受け、国際通貨基金(IMF)は2020年の世界経済の成長率の予測をマイナス3%になると大幅な下方修正をした。2008年のリーマン・ショック後を大幅に上回る最悪な不況が到来することを予測している。特に株価の暴落や社会的な打撃で雇用不安が強まってきている。この間の歴史が証明しているように、企業は生き残りをかけ、労働者に一切の犠牲を強いていくことはいくらでもできる。

今また、労働組合として現状の閉塞感を突破するために時代認識をしつかり持ち、その危機感を組合員と共有し、職場からの団結力を強化しなければならぬ。混迷を深めている今だからこそ、組合員の負託に応えるために運動を実践的にすすめていくことが求められている。

### JR東労組八王子地本は、組合員の不安を少しでも解消できるように全力で奮闘します！